

第9回 高原地区街づくり協議会 議事録（要旨）	
開催日時	平成28年12月7日（水）18：30～20：30
開催場所	福祉センター 会議室
出席委員	12名
欠席委員	岡田委員、辻沢委員、小野原委員、井手委員、植村委員
事務局	城内市長公室理事、岩田課長補佐、島田主査、藤田主任主事 （関係課）学校教育課・吉岡課長、農林課・山村課長
議事内容	
<p>1. 開 会 ー18：30ー</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>一般のタウンミーティングでも意見交換をさせていただいた。地方創生という点では私どもも今年度末にかけて、小規模特認校制度、地域の活性化策、移住定住対策、これらが良い形の循環となるよう繋げていきたいと考えている。</p> <p>一方、福住幼稚園跡の活用については用途変更等の手続きの関係で、本来であればこの秋には開きたいと考えていたところが遅れており、皆さんにご迷惑をおかけしている。お詫び申し上げるとともに今後の進め方について説明させていただければと思う。拠点整備とソフト事業がしっかりかみ合う形で、この高原地域を元気にしていきたいと考えている。本日もよろしくお願ひしたい。</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1)旧福住幼稚園利活用事業について</p> <p>事務局</p> <p>資料に基づき説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業計画の修正と今後実施する子育て支援事業等について ○修正の経緯と求められる手続について <p>会 長</p> <p>学童の要望がある中すぐに学童事業を実施できるかといえば、市の学童連絡協議会が地元保護者の中から発足したという経緯もあり難しいところがある。幼稚園を活用しながら進めていければと思う。また、事業のない日の利用についても市で支援しながら進めていきたい。</p> <p>委 員</p> <p>子どもの数は少ないが、学童はタウンミーティングでも希望があった。こういう形で週1回</p>	

でもやってもらい、そこから拡大していただければありがたい。

用途変更にかかるというのは理解したが、子育て支援事業の開始はいつごろか。

事務局

学校とも協議の上、可能な限り早々の実施を見込んでいる。希望者数が読めないところもあり、その希望把握を年内に実施する予定である。

委員

福住では幼稚園を学童的に利用することになるが、市内の他の学校ではどうなのか。

会長

他校区の学童では、隣接敷地内に学童の棟が設置されているのが主流だが、学校により敷地内にあったり、少し離れたところというケースもある。基本的には各地域の保護者が主体となって立ち上げてきた協議会が市全体の連絡協議会となり、それが市の委託を受けて実施しているという状態である。

委員

幼稚園の活用という点では良いことだ。ただ、こども園の子どもたちは大丈夫だと思うが、小学生以上の子どもたちについてはもうすこし夜遅くまで実施してほしいといった要望は出てくるように思う。

委員

福住幼稚園の活用について行政手続き上の課題等があることは理解できたが、マンパワー的に今後幼稚園カフェのような大きなイベントを行うのは困難だ。今年はジョブズスクールで利用するにしてもまず草刈りから始めなければならず非常に苦労した。

委員

活性化プロジェクト協議会では、現状では使い方の方向性が定まっていない。また市とも協議して進めていきたい。

会長

利用前の整備等の負担も、週1回でも事業者が入ることで軽減される部分があると思う。使い方については今後も検討していきたい。また、当初の議論では施設を毎日開くという予定であったため、そこが見えるまでは勝手に違うところもあると思う。

委員

水曜日は学校の下校時間が早くなることに合わせてスクールバスが走っている。幼稚園を利用することで極端に利用者が減ることもあるのではないかと。その場合、減便の可能性があるのではないかと。

事務局

利用のニーズが解らない部分があるが、水曜日の便の利用者が減る可能性はある。その場合も減便ということはないと考えている。幼稚園の利用者は基本的に保護者に迎えに来てもらうことを想定している。迎えがあるまで友だちと集まり、音楽や絵画などで楽しく過ごしてもらえるところになればと思っている。

会長

幼稚園の活用によってバスに全く利用がないようなことになった場合の対応については、他に取る策もあるかと思う。幼稚園の利用希望の把握と併せて今後の検討材料としたい。

いろいろ状況変更はあるが、活性化のみに限らず我々が構想していた健康相談事業については、長寿会や民生委員の皆様のご協力を得ながら進めていきたい。長寿会や民生委員の皆様へのお話については今後、この協議会を経て進めさせていただくということになるが、実際の開始が3月頃になるとしても、協力をお願いする予定の皆様には1～2月の間に校区等を通じて事前に趣旨説明等をさせていただくなど準備していければと考えている。

委員

民生委員は交代の時期にあたるので、少し慣れられてからお願いした方がよいかと思う。

会長

ありがとうございます。健康相談については山田町・長滝町の皆様にとってはここまで来なければならぬご負担があり、ご家庭から繋げたい等のご要望もあるかと思うが、まずは設備の整ったこの拠点からはじめられればと思う。

次の議題については学校関係ということもあり、順番を入れ替えさせていただき、小規模特認校制度についてお話をさせていただきたい。

(2)小規模特認校制度について

事務局

資料に基づき説明

○オープンスクール・説明会の開催報告（2日間計：7世帯10名の子どもが参加）

○申請状況（新1年生3名・新3年生4名・新4年生1名／5世帯8名が入学申請を提出）

会 長

基本的にみんなでバス通学をする。最初のころは慣れるまで市でも教育委員会と学校の先生でサポートする。帰りも天理駅前広場の空間整備により団体待合所に自習できるスペースをつくり、そこで親御さんの迎えを待つことができるよう整えていきたい。

8人の転入生を定住・移住施策だけで生み出そうと思えばとても大変であり、思った以上に良い反応があったというのが実感である。まず最初のお子さんが地域の方に温かく迎え入れていただける環境が非常に大事であり、これがうまく進んでいけば今後もよい方向に進んでいく。市でもぜひ力を入れていきたい。

委 員

本当に思った以上に集まってくれたという印象だ。確約はできないが、国道福住のバス停からの通学の見守りも地元の中で協力してくれる人があれば実施できると思うので募ってみる。

会 長

とてもありがたい。見守っていただくことで、地域ぐるみで迎えてくれているという実感がある。そうした評判が広がり高原への親しみやすさが増し、この機会に住居を移すとなれば定住・移住にも繋がる。ぜひお願いをしたい。

またこれは予算とも相談となるが、学校を守るための必要な支出として、特認校制度を利用する子どもたちのバス定期代は支出していきたいと考えている。

委 員

ジョブズスクールでは、3歳になったら山田こども園に通わせたいと赤ちゃんを連れて平野部の方がいらっしゃっている。その方のように素敵だと思ってもらえる地域であることがとても嬉しいことだと感じている。

会 長

その点ではこども園にも呼びかけが可能ということであれば進めていきたいと思う。中学校についても中学校へ上がるタイミングでもう一度保護者の方にご検討いただいて、そのまま上がりたいとおっしゃる場合は通学を認めていこうと考えているところである。

また、福住ならではの地域と学校が一体になった運動会などの学校行事、虫送りのような地元行事にもぜひ参加させてあげてほしいと考えている。ただ学校に通っているだけでなく、地域行事に参加することで福住はいいところだという実感も高まるものと思う。

長滝の長い滝のツアーなどはご都合もあると思うが、もし可能ならば校区の方向けの別イベント等もご検討いただければと思う。また、活性化プロジェクト協議会の皆様にも、地元行事

への声かけ等ご賛同いただければありがたい。

委員

活性化プロジェクト協議会としても、地域の特色を認めてもらい、地域になじんでもらうというのはいいことだ。まず子どもの目線から感じてもらい、平野部へ広げていってもらえればいいと思う。そういう意味では我々も積極的に協力できればと思う。

委員

いい話だが、福住の子どもたちの将来的な数は見込んでいるのか。今後も毎年募集することで校区外の子どもたちばかりが増え、いつか逆転してしまうといったようなことはないのか。

会長

急な大幅減はないが、自然減により何年か先には20名台にも入っていくと見込んでいる。今回も8人の増加がなければ全校で3名減少しているところだった。20名台にもなれば複式も増えるし、これにどこかのタイミングで見切りをつけられてしまえばあっという間に減少していく。そうなる前に何とかしていこうと、今子どもを呼んでくる方向に動いている。ただ、外から呼んでくることに気をとられて地域の子どもたちのことがないがしろになってしまっ
てはならない。これまでに地域の方から、福住の子どもたちは見知った仲間たちとずっと一緒に過ごすことで高校進学の際などに新しい環境に戸惑ってしまう傾向があると伺っている。この点では地域外の子どもたちを迎え入れることがいい体験となるのではないかと考えている。

委員

逆に大規模校へ行きたいというような場合はどうなるのか。

事務局

校区の縛りを外すのは福住校区のみであり、逆の動きは現状認められない。また、いくらでも来てくれということではなく、福住の少人数の良さを守っていけるよう、募集人数や面談回数等を工夫して、人数が増えすぎないように調整して進めてまいりたいと考えている。

会長

今回思った以上に希望があったが、バス通学等の壁もあり、そこまで急増するものとは思っていない。ただ、今回希望してもらったご家庭は全て、月1万2千円程度のバス定期代が保護者負担になっても通わせたいという教育環境に対する強い思いをお持ちだ。

委員

短期間でここまでできたのは素晴らしいことだ。質の高い教育は少人数ならではないものだが、教員の定数も生徒数で決まっている。その点でも、この取組の持つ意味は大きいと思う。この最初の8人は本当に大切にしてほしいと思うし、そうした部分はクチコミで広まっていく。学校のサポートはもちろんだが、制度が安定し整備されるまでは教育委員会からも保護者に定期的に聞き取りするなどの支援があればもっとうまくいくのではないかなと思う。

また、先ほどやまだこども園のお話が出たが、小中だけでなくこども園も連携していくことで福住の教育の高まりや成果として繋げていければますます良いのではないかなと思う。

委員

今後、随時受入など個別の要望が出てくる可能性もある。オープンスクールについても年間何回か開催するなど、積極的な情報提供にご対応を検討いただければありがたい。また今後、多くの方に知っていただく意味でも対象者以外にも視察等を受け入れてもらえればと思う。

事務局

今年は開始が遅かったこともありこの時期となったが、定数の問題もあり10・11月までには決めてしまわなければならない。できれば1学期に1回、その後氷まつりや運動会などにもご案内をさせていただいて、オープンスクールに限らず福住に足を運んでいただく中で学校を見ていただければと思う。次年度は教育委員会も早めに動いていきたいと考えている。

委員

市民の方にも広くこうした取組に触れる機会を設けていただければありがたい。また、来ていただいているお子さんのお父さんお母さんの感想というのが今後につながってくる。

会長

クチコミ等から見たいといらっしゃる方は受け入れていきたい。次回のオープンスクールには今回来ていただくお子さんがどういう環境で過ごしていただいているか、いい報告ができるようにしたいと思う。どうぞよろしくおねがしたい。

(3) 移住定住促進事業について

事務局

資料に基づき説明

○ライフスタイルブック作成概要について（冊子構成案の提示）

会長

編集で参加していただいている赤司さんご自身が移住者ということで、ご自身の経験のなか

で気がついたことも盛り込んでいただいて、かなり入り込んでいただいて作っている。3月に完成ということで、委員の皆様の中にもこれから取材等ご協力いただくことになると思う。どうぞよろしくおねがいしたい。また、現段階で何か気がついたことがございましたらご意見を頂ければと思う。

委員

冊子の発行部数について、市の予算内で決まった部数を発行すると伺っているが、我々もNPOの大阪のふるさと暮らし支援センターや近鉄百貨店でのイベントなどで配布したいと考えている。足りない部分はこちらで負担もするので、もっと発行部数を増やしてもらえないか。

会長

福住をPRできる機会が増えるのは良いことだと思う。また我々としても今回発行した分で終わりとは思っていない。有効に活用して足りないのであれば今後また増刷も行ってきたい。ご提案については一旦どういった方法がとれるか整理させていただきたい。

冊子については電子データで見られるようにするほか、市全体の移住促進としては映像も作成しており、全てを組み合わせながらPRしていければと思う。一方、東京などでこの冊子をご覧になって素敵だと思われた方が問い合わせをされるとして、移住したいと考えた際に受け皿がなければそこで止まってしまう。これは非常にもったいないことだということで、次の事業の説明に移りたい。

事務局

資料に基づき説明

○お試し居住体験について

会長

福住町にある空き家について、ライフスタイルブック編集の赤司さんのご尽力もあり、現在移住希望者のご家族が入居ご検討中である。今回赤司さんにはご自身のネットワークを活かして、移住に関心があつてこうした暮らしが好きだという方にお声をかけていただいた。移住先としてやはり可能性があるということだが、次にライフスタイルブックが出来上がってきたときに、我々としては焦りがある。冊子を見て素敵だと思って連絡をしてきてくれても、紹介できる移住先はありませんとなれば、がっかりして問い合わせも来なくなってしまう。

これから作っていく流れとかみ合うように、せめてお試し居住で来ていただけるように制度を整え、どこか紹介できる案件を探していかなければならない。こういう工夫が必要だとか、こんなご心配があるとか、ご意見を頂ければありがたい。例えば完全に売りはできないが、きちんと整理してもらえれば貸すことはできるとかいう場合に、所有者の方と入居希望者の間に

行政が中間管理機構として入るというのも可能性としてはあり得ると思う。

委員

貸すにしても、それが可能な状態の家がどれくらいあるか。

事務局

ちょうど今日の昼に、天理市の空き家の対策協議会が開催された。今後全市的に空き家の調査をして、どれが空き家でどれがそうでないかという話をしていくわけだが、そうした調査を全市的に一度に実施するとなると予算の関係もあり、まずは地区を決めてやっていくのはどうかとも考えている。現在市に移住したいというお問い合わせは月に数件あるが、福住校区へのご希望が一番多い。

委員

実は山田にもこの秋に1世帯3名の方が移住してこられた。お父さんはアイルランド人で、お母さんが日本人、小さいお子さんを連れて移住された。村の付き合いもしていただいている。

会長

外国の方はこういう環境が大好きだ。我々の方でもこうした調査をしていこうとしているが、一番知っているのは地域の方だと思っている。市に問い合わせは既に来ている。我々はみすみすチャンスを失っている可能性がある。外部からだけでなく福住に住みながら学校に通ってくれる方を増やしていくためにも、区長会を通じてもう一度、解る範囲で結構なので、使ってもいい、使えるんじゃないかという家屋の調査をかけて頂けないだろうか。

委員

難しいことではないと思う。区長はこの家は何年前から空き家で、今すぐ住めるか、いくらで売りに出しているとか、そういう情報を聞いている。今も何軒か空き家はあるし、跡継ぎがいなかったり、老人だけで住んでいたりとあと10年もすれば20数世帯いる集落の半数は空き家になる。家は長い間空き家で放置してしまえば住めない。リストでも作って、空き家になったらすぐに入ってもらえるのが理想だ。

会長

年度末までにそういう情報を聞いていただいて、何件かだけでもいいスポットがあれば、我々もこうした問い合わせに応えていける。ライフスタイルブックを作ればと撒いた初動が非常に大事で、1世帯4・5人がコンスタントに来ることが1,000人規模の集落が持続していくための指標になっている。これは初回の高原地区まちづくり協議会でもお話をさせてい

ただいたが、まさしく今がその時だと感じている。

集落の半分が空き家になったときに募集をかけても、そこから呼び返してくるのはなかなか難しい。周りにコミュニティが活きている状況だからこそ魅力的であって、半分は空き家だと言われても状況が変わってきてしまう。是非とも地区の会議での次の議題に乗せていただければと思う。

委員

情報収集というか、空き家情報の提供と言うのは可能だと思う。しかし、空き家の持ち主と必要とされる人のマッチングは難しい。1回では決めきれなければ何回も見に来られる、中が見たいと言われれば持ち主に確認して中に入れてあげると、楽なことではない。

会長

必要なことではあるが、忍耐のいることだ。お許しいただけるのであれば、次の地区の役員会にでも市の事務局から趣旨説明に上がらせていただくので、調整させていただければと思う。

委員

地区に1人町を離れて遠方に住んでいる方がいるが、その方が自宅を不特定多数の旅行者を安価で泊める施設に変えたいと考えていると聞いている。外国の方などがやって来て、散らかして夜遅くまで騒がれるのではと村でも危惧しているが、その方は村付き合いがなく話し合いもできない。市の移住促進といった事業とは別段階でそのように考えておられる方もいる。

会長

一般の民泊については法整備もあり、リスク管理等ご心配の部分がカバーされている部分もある。また、散らかし騒ぐような旅行者というのは、どちらかというと言遊興目的で都市部を好んで宿泊されるのではないかと。我々としては空き家状態で置いたままよりも、いろいろな方が訪れ、福住のを知る機会となれば良いこと。いい形での活用については市も応援したい。

事務局

不特定多数の旅行者を安価で泊めるというと全く知らない方が来られて不安だというご意見があったが、移住希望者の方にとっては地域の方と交流し地域の事を知ってもらうことになり、住民の方にとっても新しく来ようとしている人がどんな人か予め知ってもらう良い機会になる。空き家コンシェルジュ等のNPOの例も参考にしながら進めていきたい。

委員

福住では食べる場所も少ない。買い物も不便だ。こうした空き家を活用して食事や特産品の販売の出来る場所や一流シェフの予約制レストランができれば、若い人も住んでみようかと思う。移住だけでなくそうした楽しみのある場所も考えていただければありがたい。

会 長

誘致については、まずはそうしたシェフの方が身を投げ打ってここでやりたいと思ってもらえることが大切で、そうした方にもライフスタイルブックを打ち出していきたい。今トレイルセンターの指定管理事業者がコンペで決まったが、その方は柳本在住で大阪に複数お店を持っておられたが、そのうちの1店を閉めて柳本に帰って来られることになった。こうしたやりたいと思う人を惹きつける取組はやっていきたいと思う。来ていただければ素晴らしいこと。

委 員

病院に勤める知り合いで福住に空き家を探している方がいた。転勤もあつてずっとは住めないが、それでも住みたいという方はいる。ずっと村に住んで付き合いもして、という人でないと受け入れてもらえないのか。

会 長

それは地域の方が、一定期間の方でも歓迎だと言うか、定住するつもりがないなら駄目だと言うかによる。我々としては柔軟に、医師のような地域の方の信頼性も高い方がローテーションで来ていただくのも良いのではないかと思う。我々としては空き家を社宅や学生寮として使ってもいいという場所があれば喜んで声かけ等に協力させていただきたいと思っている。

空き家の調査にあたって、売却以外にも定期的な利用が可能なのか、そうした多様な活用をしてもいいのか、地区の方と一緒にご確認いただいて、その後ももう少し細かい条件の調査をさせていただいて繋ぎを行っていききたい。

事務局

この点については貸していただけるかという意向調査が大変だということ以外に、貸していただけたとしても実際にそこに入居するのにどれだけ修繕費用がかかるか、また市街化調整区域では用途変更等で法的にクリアしなければならない問題も生じる可能性があり、事前に確認が必要となる。

委 員

移住するのであれば、地域に入って行事や出会い、協議費などの費用も同じように負担してもらえればと思うが、来てもらってからこんなことは知らなかったと、1年かそこらで出ていかれてしまつては元も子もない。あらかじめそうした地域の風習や制度を知ってもらう機会が

必要ではないか。地元と協議させてもらえれば役員のなかで、移住者の方は免除するとか、そういったことも検討できる。新しい方を温かく迎えらるような環境作りが必要だと思う。

会 長

あまりネガティブな面を押し付けると委縮してしまう部分もある。空き家のままよりは改修して住んでもらえたらいいということで、物入りな最初だけは金銭的に免除するとか、そういったことを自治会でご了承いただければありがたいこと。住民が少なくなれば各戸のご負担も大きくなっていき、いつか維持ができなくなる可能性もある。外から来る人を特別扱いするわけではなく、今いる住民がずっと安心して住み続けるための布石として必要だということをご理解いただいて、協議会の委員様を中心にいい受入の流れを作っていただければと思う。

委 員

これまでも村づきあいをしてくれる人もいれば、協議費だけ負担してセカンドハウスとして住むような人もいた。いろいろなケースがあると思うが、お互いに悪印象を持たないよう、理解しあっていければよい。

会 長

今後移住が進めば、これまで協議会でも十分認識していなかったようなケースも出てくると思う。こんなことが問題になったなど、今後情報共有していただいて、どういう点を注意したらよいか地域ぐるみで考えていければと思う。

委 員

空き家コンシェルジュでは物件のマッチングは進むが、どんな人がくるか解らないという不安もあって、地域への円滑な受け入れが課題になっているという。これには引っ越してくる人に隣家を紹介するなどの取組がある。物件にしても周囲の方への遠慮等でなかなか情報が出てこない部分もある。福住は名阪国道沿線で便利が良く、人気となる可能性のある地域だ。空き家協議会の発足を通じて、空き家情報が活発にやり取りされるようになれば良いと思う。

会 長

関連して、木村（勇）委員が今年の11月に留学生のホームステイの受け入れをされたということで、お気づきの点があればご紹介いただければと思う。

委 員

宇陀市深野の国際交流による地域づくりの様子を見せてもらったこともあり、今回受け入れをさせてもらった。天理大学の留学生で、先月の22日から24日の朝まで滞在された。干し

柿作りをしてもらって、本人の希望で正暦寺や春日大社を巡ったり回転ずしを食べたりした。福住の下之坊に案内したときには婆羅門杉に驚いていた。日本語に堪能で会話に不自由はなかったし、食事や風呂もいつも通りで、寝室は離れを利用してもらった。もっと地元を案内できればよかったと思うので、次の機会には地域のイベント等にも参加してもらいたいと思う。先日もホームビジットで会い、依水園やならまちを紹介したりお好み焼きを食べたりした。

会 長

手厚くもてなして頂いてありがとうございます。こうした取組も今後重ねていただければと思う。情報発信のツールが着々とできてくるので、引き続き地域にその受け皿ができてくるようまたご協力をお願いしたい。

すみません。時間も迫ってまいりました。4・5ページについては、県との取組の関係でまた着実に進めてまいりますというもの。中身については既に取り組んでいるものが多いが、ご意見等あればまたお伺いできればと思う。8ページについては、主にイベントの紹介となる。

事務局

資料に基づき、イベント等について紹介。

委 員

これ以外にもいろいろな地域行事がある。山田では昔から続いている行事で正月元日の昼から薬師寺でおこない（修正会）をとり行う。少し変わっていて、乱声とって音で邪気を払う所作をする。ライフスタイルブックの地域行事等に取り入れてもらえればと思う。

委 員

今度の23日は指定文化財でもあるさるまつりの日なので、是非取材をしてもらえれば。

会 長

地域の伝統を紹介する良い機会になるが、紙面の都合もあるので情報を頂いて一旦製作サイドにも投げた上で検討させてもらいたい。

また、6ページの交付金についてはまだ募集中であり、NPOからコンテストの募集も来ている。ご確認いただければと思う。

本日はどうもありがとうございました。

4. 閉 会 -20:30-